

## ■ 野鳥の渡り ■

1年を通して外を歩いていると、野鳥の鳴き声が聞こえたり、姿が見えたりすることがあります。1年中見られる鳥としては、シジュウカラやエナガ、アカゲラなどがあげられ、それらは「留鳥」と言われます。しかし、季節によって住む地域を変える野鳥も多くおり、それらは「渡り」をします。早春から初秋にかけて見られる「夏鳥」や、秋から早春にかけて見られる「冬鳥」、そして春や秋の渡りの途中に日本に立ち寄る珍しい「旅鳥」がいます。



夏鳥は主として繁殖のために、フィリピンやインドネシア等、日本より南の国からやってきます。福島県の鳥でもあるキビタキやオオルリ、ツバメ等が当てはまります。冬鳥は越冬のために、ロシア等日本より北の国からやってきます。コハクチョウやマヒワ、ツグミ等が当てはまります。裏磐梯でも多くの夏鳥や冬鳥が観察でき、それらを目当てに多くのバードウォッチャーが裏磐梯を訪れます。旅鳥は見ようと思って見られる野鳥ではありませんが、シギ類やエソビタキ等が見られることもあります。

では、私たち人間は飛行機や船で移動して海を渡りますが、野鳥はどれだけの距離を飛ぶのでしょうか？ツバメの場合、フィリピンやインドネシア等の東南アジアから繁殖のために飛来し、繁殖を終えると戻っていきます。その距離はなんと往復 2,000km 以上と言われており、1日でも 300km 以上も飛ぶそうです。おおよそ裏磐梯から富士山周辺までの距離と考えると、凄いですね。

4月になると、夏鳥がやってきます。ぜひ双眼鏡やフィールドスコープを持って、裏磐梯の探勝路やご自宅の周りを散策してみませんか？

## ■ こんなの見なかった？ ■ 裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

自然のなかを歩いていると、常に新しい発見があります。雪の上を歩いていると、丸くて茶色いものを見かけることがあります。右の写真のように1個だけぽつんと落ちていることがあれば、何個もまとまって落ちていることもあります。さて、これは一体なんでしょう？

- ①ノウサギのフン
- ②ハンノキの実
- ③探勝路の目印
- ④ペレットストーブの燃料
- ⑤フクロウのペリット



正解は①ノウサギのフンです。小さくて可愛らしいフンですが、臭いをかいでみても全然臭くありません。ノウサギは木の芽や枝、樹皮などを食べる植物食性の動物であるため、フンは臭くなりません。見つけたときは、ぜひ2つに割って臭いをかいでみてください。フンを探すときは、足跡を追ってみるとよいでしょう。足跡のつき方は独特で、縦並びの2つ（前足）と横並びの2つ（後ろ足）がセットになっています。ノウサギは先に前足を前後にずらしてついた後、後ろ足をそろえて前足よりも前方につきます。そして後ろ足でぴょんと跳ねます。下の写真では、どちらの方向に歩いたのか、わかりますか？（正解は右から左）



ノウサギそのものを見かけることはなかなかありませんが、フンや足跡といった痕跡（フィールドサイン）を見つけることは決して難しくありません。特に残雪期は、後から積もった雪によって見えなくなってしまうことが少ないため、これらのフィールドサインが探しやすくなります。ノウサギの生活の一端を探してみたいかがでしょうか？